

フィールド レポーターだより!!



2015年度 第2回調査

「セイタカアワダチソウを調べよう」結果報告

外来植物であるセイタカアワダチソウが急速に広がりを見せていた20世紀末、日本の在来植物が消滅してしまうのではないかと心配されていました。そんな中で行われた1997年調査から18年ぶりの追跡調査として、今回の調査は行われました。はたして、セイタカアワダチソウが在来植物を駆逐する心配は、現実のものになったのでしょうか。

全国的には、セイタカアワダチソウの繁茂は近年、収束傾向にあると言われています。しかし今回の調査結果では、1997年よりも広く、高く成長している群落が多く見られました。一方、背丈が小さい群落も見つかりました。環境による違いが大きかったのです。草丈の低いセイタカアワダチソウが多かった堤防では、崩壊や水漏れがないかを確認するために定期的に草刈りが行われます。そういった人の手入れがある草地では、セイタカアワダチソウはススキやエノコログサなど外来植物と一緒に生育していることが分かりました。しかし、放棄水田など人の手入れがなくなってしまった草地では、高く成長したセイタカアワダチソウがクズとともに一面に広がっていました。こうなると他の植物は光がさえぎられて成長できなくなります。つまり、草刈りなど人の手入れが十分ならば、セイタカアワダチソウは在来植物と共存できるのです。このように草刈りや火入れ等、人の手が入ることのできた草地を半自然草地と言います。半自然草地は、日本で古くから身近にある草花が多く生育する環境です。長年自然と関わりながら暮らしてきた日本ならではの環境の一つと言えるかもしれません。しかし現在、手入れをする人がいなくなり、放棄された草地は開発され、半自然草地に生育する草花や生き物がすみにくくなってきています。今では秋の七草であるキキョウも絶滅危惧種です。

また、今回セイタカアワダチソウに対するイメージ調査からは、嫌いではない人が大半を占める意外な結果が出てきました。私のように20年前にはセイタカアワダチソウのことをよく知らなかった方も、この20年でイメージが変わった方も、この調査で改めて考えてみた方もいたことでしょう。お住まいの地域によっても、イメージは変わるかもしれません。街中にいるとセイタカアワダチソウを見ることが少ないので減ってきたと感じるかもしれませんし、身近で毎年見る人にはごく当たり前の草花の一つになってきたかもしれません。今回の調査は、セイタカアワダチソウをテーマに、身近な草むらに生える草花と人の関わり方に目を向ける良い機会になったと思います。

琵琶湖博物館 学芸員 澤邊久美子

「セイタカアワダチソウを調べよう」調査の結果報告

秋の調査は、「秋の風物詩(?)」ともいえるセイタカアワダチソウについて、花が咲く時期の集団の様子を調べていただくとともに、皆さんが知っていること・感じたことを答えていただきました。調査に参加していただいた皆様、ありがとうございました。1997 年度(18 年前)の調査に参加して頂いた方には、その後の様子について追跡調査をお願いしました。ご回答頂いた方々に感謝申し上げます。

セイタカアワダチソウはかつて日本中に蔓延して問題になった帰化植物です。今回(2015 年度)と前回(1997 年度)の調査結果とを比較検討することで、20 世紀末から現在までの生育環境や、他の植物との混生する状況、草刈などの人の関わり方、他の植物との競合関係、そして花についての皆さんのイメージや感想の変遷が見えてきました。

1. 調査方法

今回の調査では3種類の調査票(報告書末に添付)を用いました。フィールドレポーター全員に①「セイタカアワダチソウが咲いている場所の調査票(調査票—1)」と②「セイタカアワダチソウについて知っていること、感じたことの調査票(調査票—2)」を送りました。また、1997 年度の調査の参加者には「調査票—1」と「調査票—2」に加えて、1997 年度調査時の「回答済み調査票のコピー」と③「セイタカアワダチソウが見られなかった場合に記入して頂く調査票(セイタカアワダチソウが見られない場合)(調査票—3)」を送り、18 年前にセイタカアワダチソウの花が咲いていた地点で花の有無を調査していただきました。

2. 回答状況

送りました3形式の調査票の回答状況は次の通りです。

① セイタカアワダチソウが咲いている場所の調査票

39名の方から166件の回答をいただきました。

② セイタカアワダチソウについて知っていること、感じたことの調査票

44名の方から44件の回答をいただきました。

③ セイタカアワダチソウがみられない場合の調査票

15名の方から41件の回答をいただきました。

「セイタカアワダチソウが咲いている場所の調査」(①)と「セイタカアワダチソウが見られない場合の調査(追跡調査)」(③)は、ともに開花時期の9月下旬から11月下旬に調査されました。(図1)

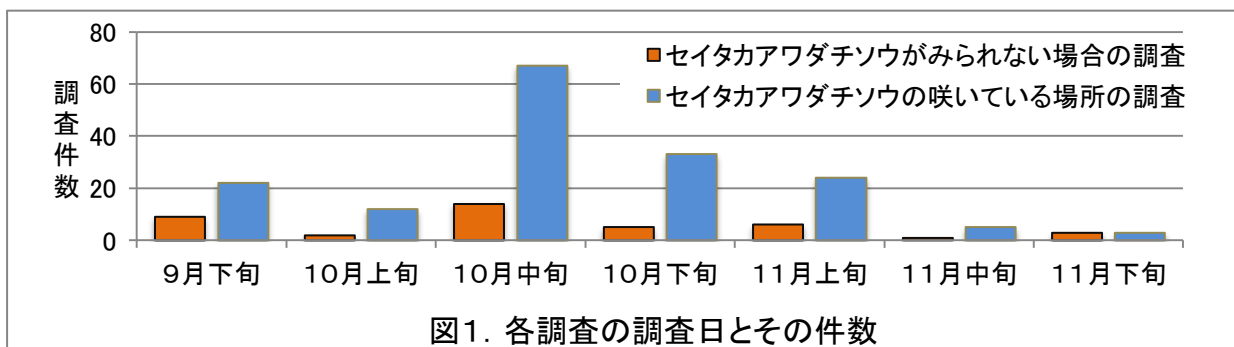


図1. 各調査の調査日とその件数

I, セイタカアワダチソウが咲いている場所の調査

1. 花の調査地点の県内分布

花が観察された全調査地点は図2、図3の通りです。2015年度と1997年度を比べてみると、2015年度は湖東の調査地点は減りましたが、湖西の調査地点が増えました。

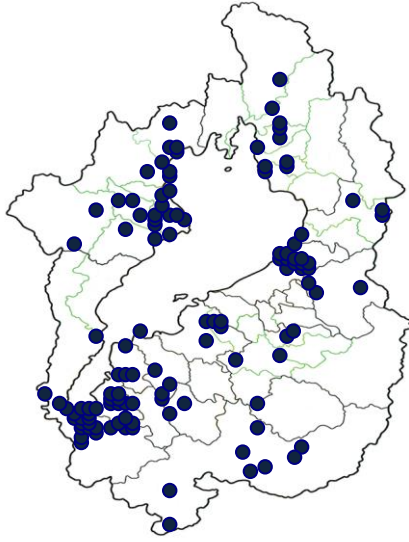


図2. 2015年度花調査地点
166地点 119メッシュ

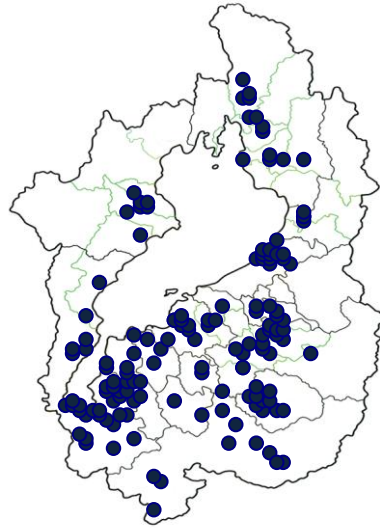


図3. 1997年度花調査地点
236地点 149メッシュ

2. 花が見られた環境

表1は2015年度調査結果で、表2は1997年度調査結果です。各々花が観察された環境の割合です。環境の区分が異なるので直接比較はできませんが、2015年度に最も多い農地環境(休耕地、畦、田、畑)の割合は22%で1997年度の農地環境(休耕地、田んぼ横、空地・農地)の割合の31%に比べて減りました。2015年度の道路(法面、植込み)の割合は13%で1997年度の道ばたの割合21%に比べて減り、2015年度の河川・堤防の割合は16%で1997年度の川の土手の割合7%より増えました。

表1. 2015年度、花を観察した環境(166地点)

農地・休耕地	河川・堤防	住宅地・空地	道路・法面	河川・河原	事業所	山際
17%	16%	13%	10%	5%	5%	4%
河川・其他	農地・畦	線路会社敷地	道路・植込	池・湖岸	公園・法面	駐車場
4%	3%	3%	3%	3%	2%	2%
線路・法面	農地・田	農地・畑	住宅庭	公園・植込	公園・庭	グラウンド
2%	1%	1%	1%	1%	1%	1%

表2. 1997年度、花を観察した環境(236地点)

道ばた	空地・住宅地	休耕地	田んぼ横	空地・農地	川の土手	河原	池・湖岸
21%	16%	12%	11%	8%	7%	6%	4%
線路脇	グラウンド	空地・市街地	住宅地	駐車場	空地・他	山際	荒地・湿地
4%	4%	2%	1%	1%	1%	1%	1%

3. セイタカアワダリソウの集団の大きさ

図4に、2015年度調査で観察されたセイタカアワダチソウ集団の規模を示します。図5には同様に、1997年度の集団の規模を示します。2015年に、1997年よりも「広い集団」の割合がわずかに増えています。一方、「数株」の小さな集団の割合はやや減少しています。

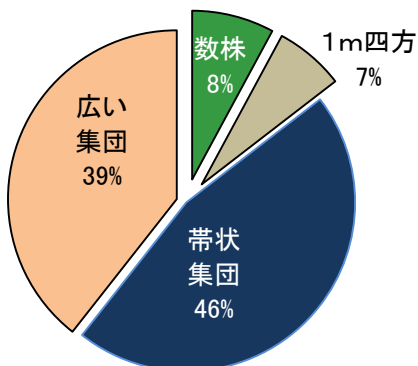


図4. 2015年度花が咲いていた集団 (データ数165)

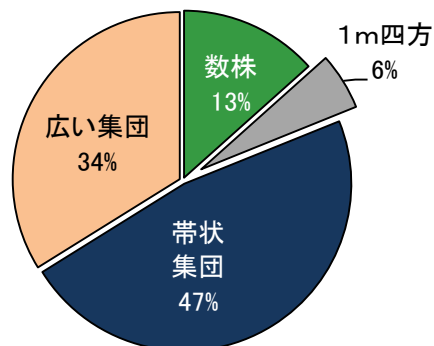


図5. 1997年度花が咲いていた集団 (データ数254)

図6では带状集団の長さを、1997年度と2015年度で比較しています。2015年度は長さ150m以上の割合が多く、長い带状集団が増えました。2015年度には道路・法面で最長8,000mの带状集団が観察されました。

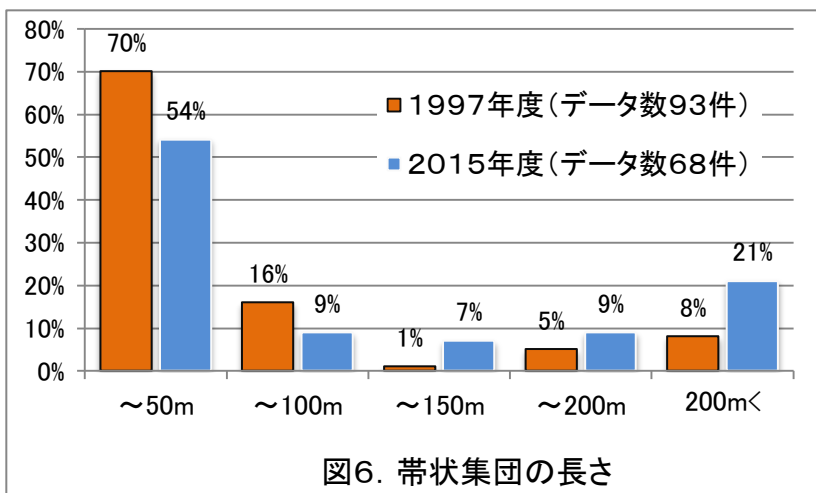


図6. 带状集団の長さ

図7は広い集団の面積の、1997年度と2015年度の比較です。2015年度には1,600㎡以上の広い集団が増え、農地・休耕地で最大10,000㎡の広大な群落が観察されました。

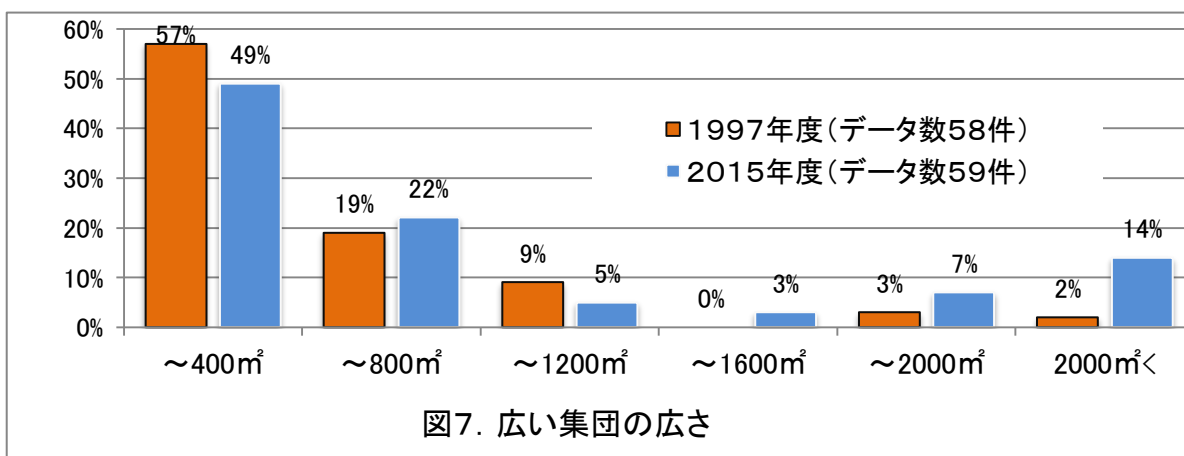


図7. 広い集団の広さ

長い带状集団や、広い面積の集団が、2015年度は1997年度と比べて増えているように思われます。

4. セイタカアワダチソウの草丈の高さ

観察されたセイタカアワダチソウの草丈の高さを、観察されたデータ全件に対する割合で示し、2015年度と1997年度とで比較しました(図8)。2.0m以上の草丈の高い集団は2015年度の方が多く、最も高いものでは3.7mのものが観察されました。

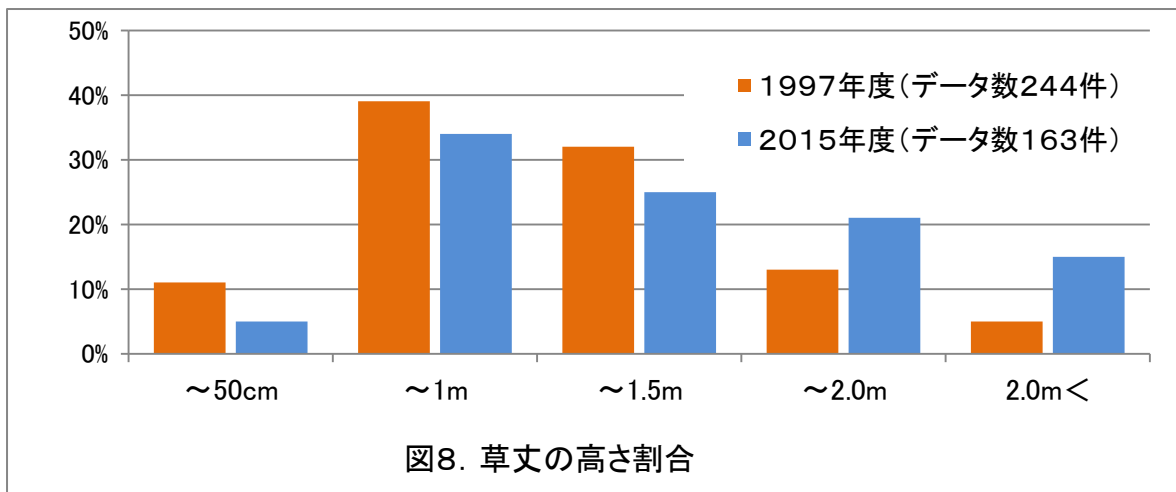
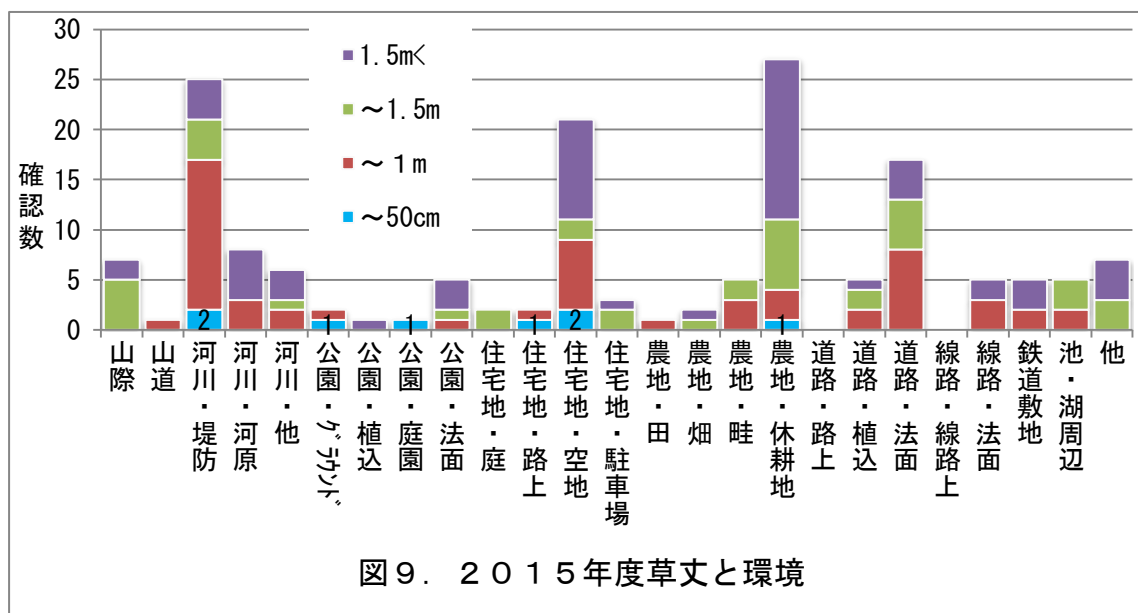


図9は2015年度の草丈と環境を示しました。環境によって草丈の高さには違いがあります。草丈の1m以下の低いのが多いのは河川・堤防で、草丈の1.5m以上が多い環境は住宅・空き地、農地・休耕地でした。



5. 草刈の影響

セイタカアワダチソウは身近にある草ですので、育っている環境と草刈の影響を調べることで、人との関わりが見えてくると思われます。そこで、セイタカアワダチソウが観察された場所での草刈りの有無とその頻度について調査しました。草刈りの有無を調査者が知らない場合は、「不明」とし現場の状況などから草刈りの有無を推測しました。

図10-1は草刈頻度が特定された場合の環境別草刈頻度(2015年度)で、図10-2は草刈頻度が不明な場合の調査者の推測による環境別草刈の有無(2015年度)です。河川・堤

防や道路・法面が比較的草刈頻度が高いようです。

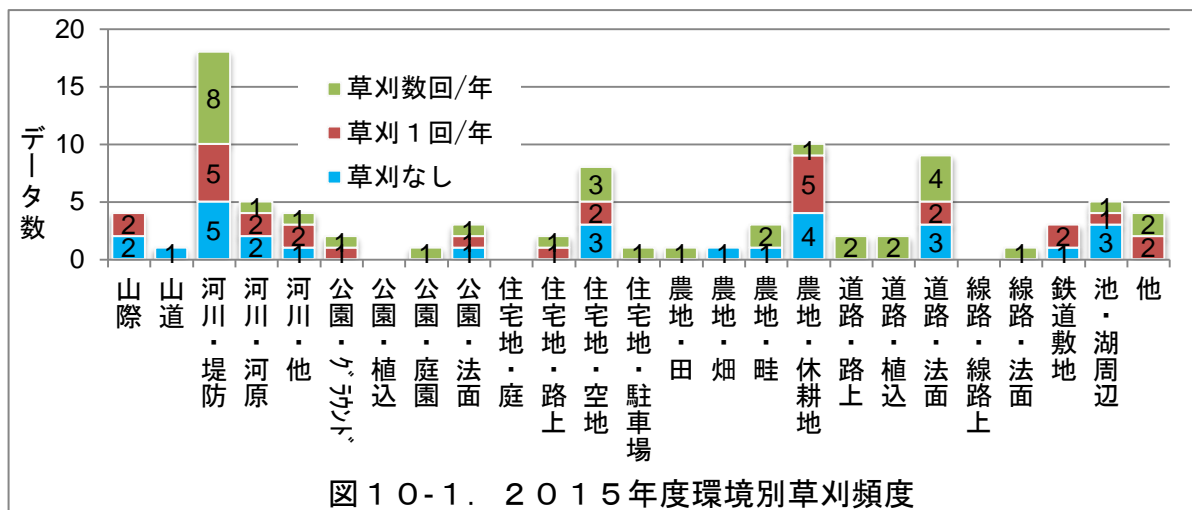


図10-1. 2015年度環境別草刈頻度

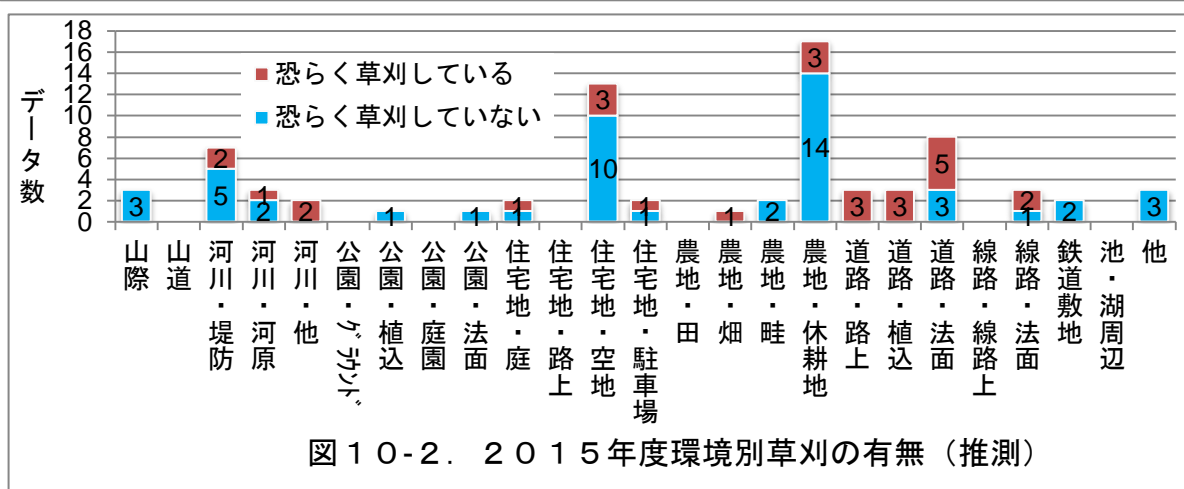


図10-2. 2015年度環境別草刈の有無（推測）

図11-1に草刈頻度と草丈との関係を、図11-2に推測による草刈の有無と草丈との関係を、それぞれ示しました。草刈頻度が高いと草丈の低いことが多く、草刈頻度が低いと草丈の高いことが多い傾向が見られました。環境によって草丈が違う理由は、草刈頻度と関係があるようです。

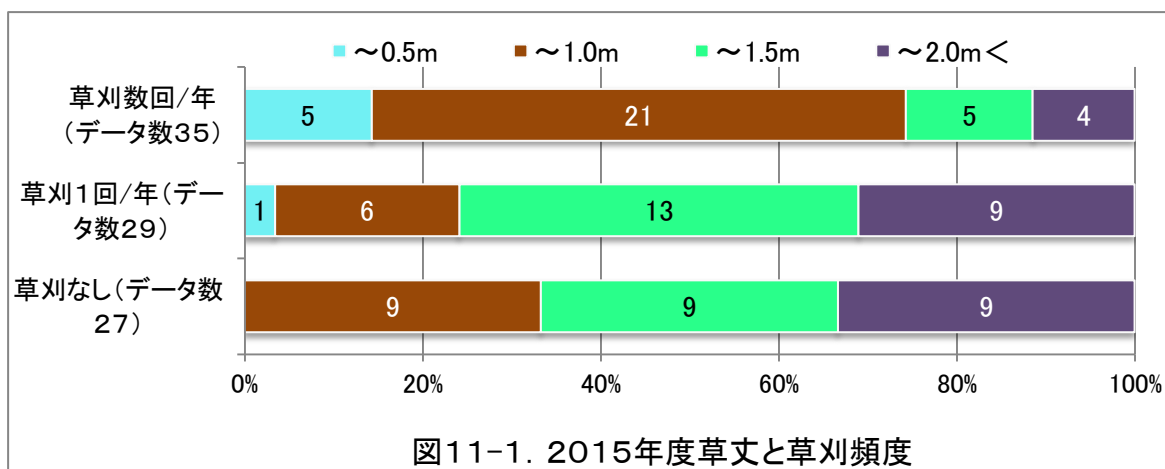
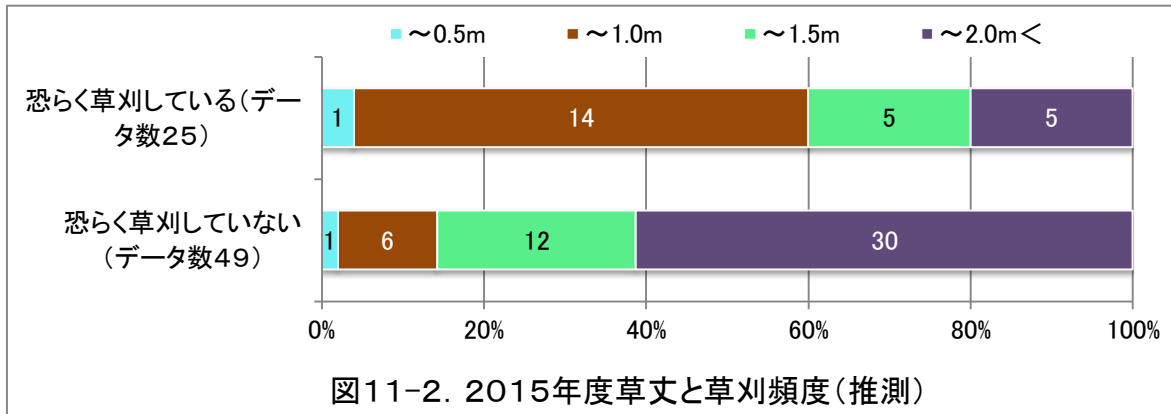


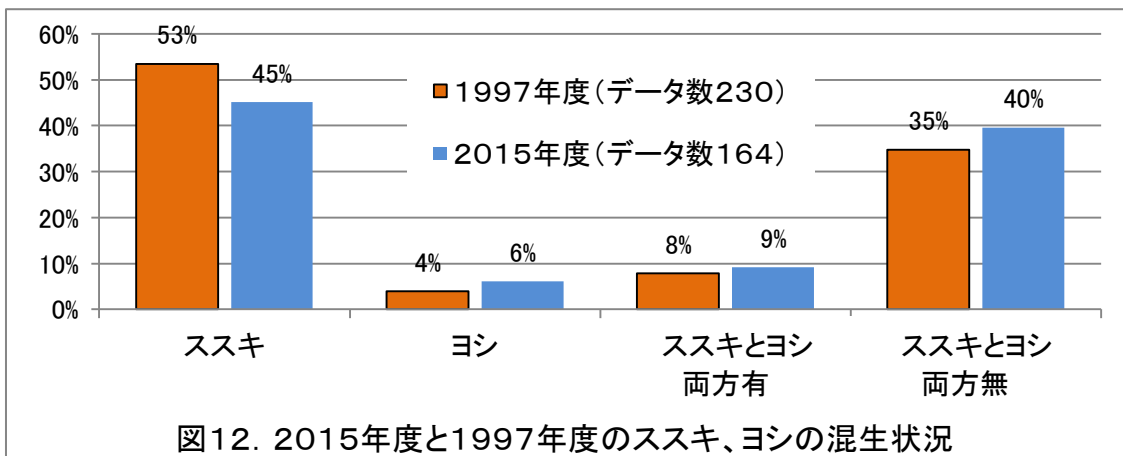
図11-1. 2015年度草丈と草刈頻度



6. セイタカアワダチソウと混生する草

1) ススキ、ヨシの混生状況

セイタカアワダチソウの集団には、他にどのような植物が生えているかを調べました。図12はススキ、ヨシとセイタカアワダチソウとが混生しているかどうかについて、状況を2015年度と1997年度で比較しました。2015年度はススキと混生していた割合が少し減っています。



2) ススキ、ヨシ以外の草の混生状況

図13(8ページ参照)はセイタカアワダチソウと混生するススキとヨシ以外の草の種類、2015年度と1997年度の比較です。いずれもヨモギ、エノコログサ、クズと多く混生しています。ヨモギ、エノコログサ、クズ、アメリカセンダングサ、アレチノヌスビトハギ、オオアレチノギクの混生する割合は、2015年度に増えています。イヌタデ、ブタクサは2015年度に減っています。

1997年度の調査票では混生する植物の名前は自分で書いて頂く自由回答形式でした。2015年度の調査票では多くみられるであろうクズ、ヨモギ、エノコログサ、アメリカセンダングサ、アレチノヌスビトハギについては、調査票に名前を挙げて丸をつけてもらう形式にし、それ以外の植物については名前を自分で書いて頂きました。クズ、ヨモギ、エノコログサ、アメリカセンダングサ、アレチノヌスビトハギの回答数が増えている要因として、調査形式が変わったことが関係しているかもしれません。

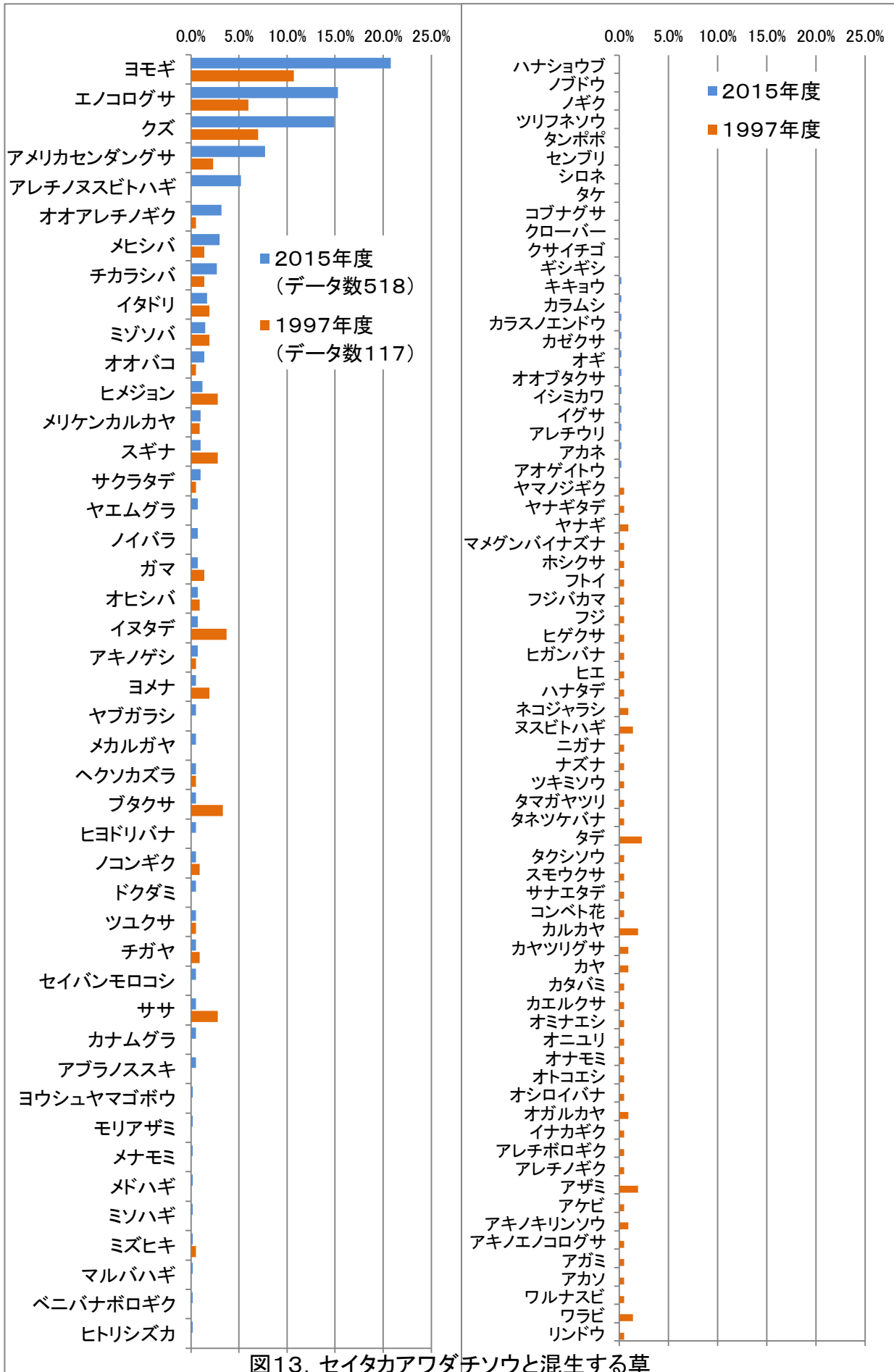


図13. セイタカアワダチソウと混生する草

3) 混生する草と草刈の影響

図14-1は草刈頻度と混生する主な草の種の関係、図14-2は推測による主な草の種との関係です。

草刈頻度が低くなるとクズの割合が増えています。ススキは草刈頻度が高くなると増えてくるようですし、エノコログサやヨモギも草刈の有る場所で見られることが多いようです。

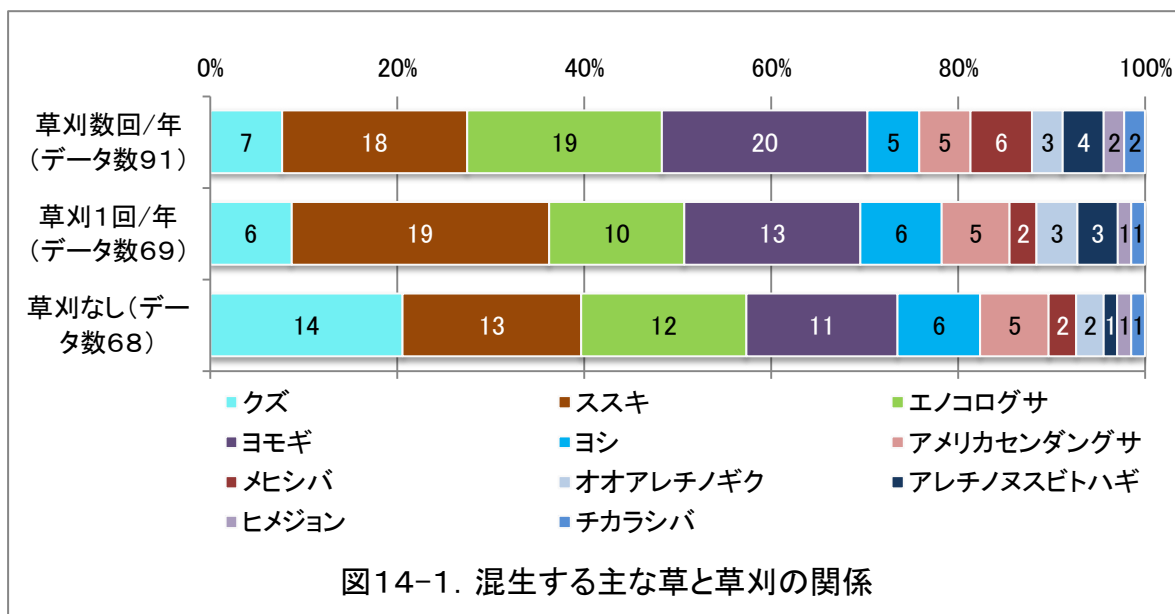


図14-1. 混生する主な草と草刈の関係

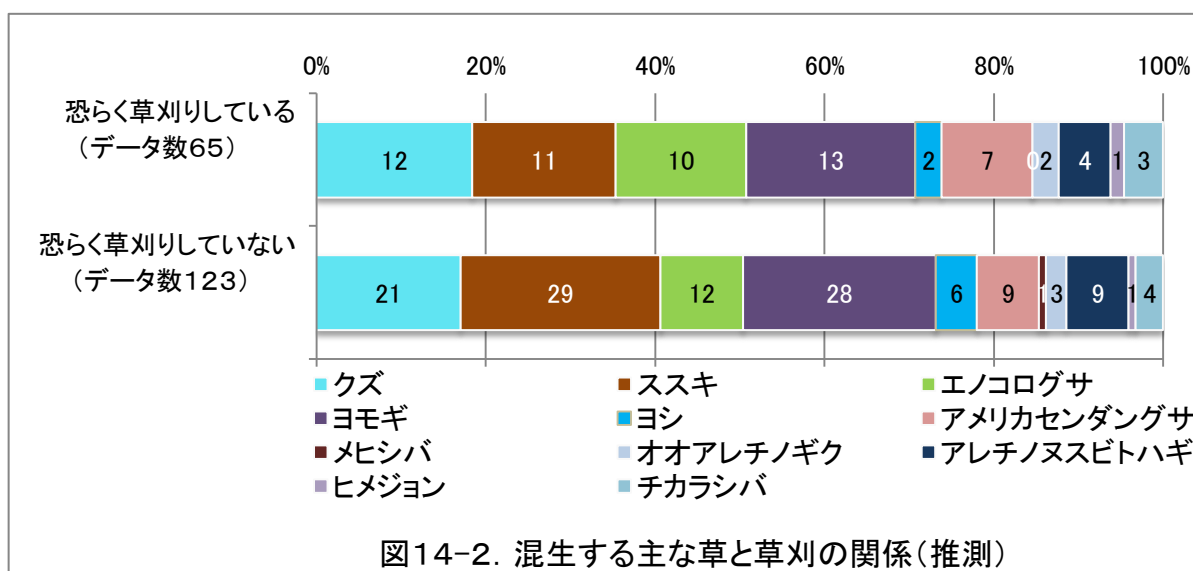


図14-2. 混生する主な草と草刈の関係(推測)

Ⅱ. 1997年度調査の追跡調査

1. 調査地点の分布

1997年度調査でセイタカアワダチソウが咲いていた地点で、今回(2015年)再調査をしていただきました。

図15は再調査の全調査地点です。

セイタカアワダチソウの花が見つからなかった(花が無かった)地点のデータは37地点、27メッシュ、花が見つかった(花が有り)地点のデータは30地点、22メッシュです。

甲賀市では他に比べてセイタカアワダチソウの花が見つからなくなった地点が多いように思われます。

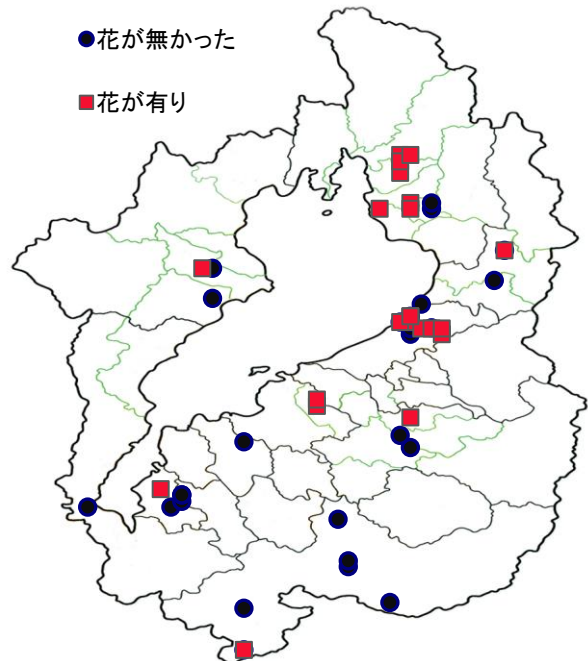


図15. 1997年度追跡調査

2. 1997年度調査の追跡調査結果

図16は1997年度調査と同じ地点でセイタカアワダチソウの有無を調査した結果です。花の咲く環境によって花の有無に差が見られます。

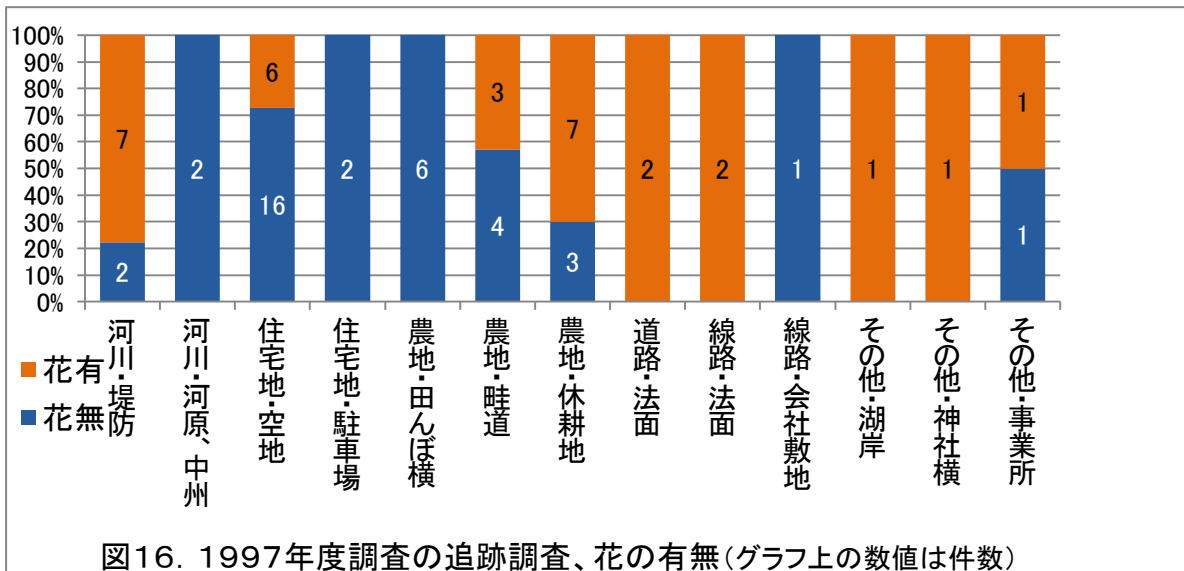


図16. 1997年度調査の追跡調査、花の有無(グラフ上の数値は件数)

表3、表4は花が見つからなくなった環境と見つからなかった理由です。環境が変化して花が見つからない地点は住宅開発が主な理由です(表3)。また環境に変化はないのに花が見つからないのは草刈の頻度が上がったのが主な理由でした(表4)。環境変化はないが、花が見つからない理由が不明とされた地点もあります(表4)。農地の田んぼと畦は耕作さ

れず雑草が生えていることや、河原はヨシが優占していることなどが理由として考えられるかも知れません。以上のことからセイタカアワダチソウの花が見つからなくなった理由には、人の影響が大きくかかわっているものと思われます。

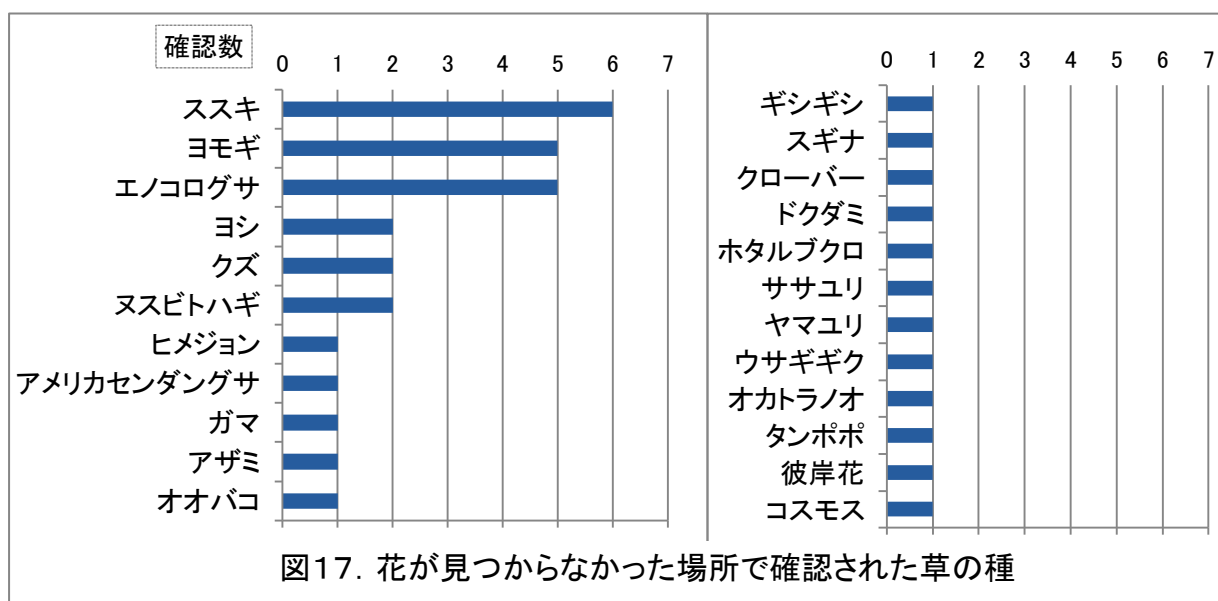
表3. 環境が変化して花が見つからない。 表4. 環境変化はないが花が見つからない。

元の環境	数	変化した後の環境
河川・堤防	1	造成された
河川・河原	1	河川改修、公園化
住宅地・空き地	16	12ヶ所住宅
		3ヶ所駐車場
		1ヶ所住宅と道路
住宅地・駐車場	2	1ヶ所住宅
		1ヶ所更地
農地・田んぼ	4	3ヶ所住宅
		1ヶ所建物、駐車場
農地・休耕地	2	2ヶ所住宅
農地・畦	2	2ヶ所綺麗になった

元の環境	数	花が無い理由
河川・堤防	1	草刈頻度多い
農地・田んぼ	1	草刈頻度多い
農地・休耕地	1	草刈頻度多い
農地・畦	1	草刈頻度多い
線路・会社敷地	1	草刈頻度多い
その他・事業所	1	草刈頻度多い
農地・畦	1	不明
農地・田んぼ	1	不明
河川・河原	1	不明

3. セイタカアワダチソウが見からなかった場所で確認された草

図17は花が見つからなかった場所で確認された草の種類です。優占種はススキで、次いでヨモギ、エノコログサが多くなっています。この傾向は I. 6. 3) 混生する草と草刈との関係の項で述べた草刈の頻度が高くなった時の結果と似た傾向です。



4. 18年前と同じ地点でセイタカアワダチソウの調査をしていただき、花が見つからないと報告された方々が気づかれたこと、感じられたこと。

調査票に記載された記述を、花が見つからなかった理由に分けて紹介します。

①開発による環境変化で花が見つからない

- ★ 田んぼがなくなり土を入れ替えて住宅が建設中です。
- ★ マンションになってしまった。
- ★ 駐車場にするためアスファルトになった
- ★ 田んぼ全体が宅地になった。以前は田の黄色に赤のヒガンバナのあぜ道を楽しんでカメラを持って散歩したものだった。私は造成地になると思って、球根を2、3個拾い植木鉢に植えておいたらこの九月彼岸頃に赤色の美しい花を見てなつかしかった。園芸店で桃色、黄色を買って育てていたので、赤と三色を庭で季節を感じた。葉は花が終わると自然に下から出てくる事もしっかり見られた。冬何もない時期に、上の三色の葉っぱもまた美しいなど、冬でも青々として庭のけしきも楽しい。
- ★ 宅地や駐車場として整備された。(砂を入れた。)最近ハルジオン(?)と思われる草がいたる所で繁殖している。特に道路の脇や農道で見られる。休耕田や、廃屋付近で未だまだセイタカアワダチソウが見受けられる。
- ★ 周りは住宅であり2面が道路
- ★ 住宅地の一区画であった
- ★ 住宅地である。
- ★ 周囲はビル・マンションが建って開発が著しく、写真の右側は大型マンション、ここだけ空き地になっているのは珍しいくらい。ただ、環境に配慮して雑草が繁茂していない。日常は殆ど考えてないが、所謂、草津駅周辺の開発の度合はこうした調査をすることによって18年前に遡って振り返ると激変と云えるほどの変わりようだと驚く。当然地面は舗装されるから植物は生えようもなくなる。而してセイタカアワダチソウは極狭いところで数株の集団をみることがある。
- ★ 埋め立てられました。年を経て前回の様に歩き廻る個所が少なくなりました。住宅地付近でセイタカアワダチソウを見る機会が減りましたがやはり少しの空き地があれば繁殖するのですね。
- ★ 工業団地の一角であったため、全て整地され工業団地になっている。河川が一部用地内にある様。
- ★ 宅地化された。第8公園のすみにはヨモギ、エノコログサの中にセイタカアワダチソウが混在している、数株、30~50cm。

②住民や所有者による環境整備によって花が見つからない

- ★ 年2回の草刈、柵の中の空き地、いつの間にか消えた。たくさん咲いている場所は川に沿って動いている気がする。昔ほどゴツゴツした感じでなくてアキノキリンソウそのまゝの花になった気がする。やさしい黄色の秋の風情がかもし出されている花が多くなった気分、イヤ味のない花になったのかな。新草津川の堤防は年2回草刈されるのできれいになった。川原に集団で咲いている。ススキとヨシが半々に集団をつくり、セイタカアワダチソウの集団を囲みながら移動しているように見える。

- ★ 通学路のため一年間に最低2～3回は刈り取りされている。前回調査した以外も見ましたが見当たりません。
- ★ 草刈りが何回も行われる。
- ★ きれいに除草されている。以前はススキなども多さん見られたが今は全く見られない。除草剤が散布されたのではないか。
- ★ きれいに除草されている。(除草剤が散布されている可能性がある。)機械で除草することはよしとして、農薬(除草剤)を使うことは好ましくない。たとえ畦道あっても短んぼに影響があることは間違いない。
- ★ 作業員による草刈、少なくとも年に3回位草刈すればだんだん少なくなる。
- ★ 工事関係、又地元の方たちが力を入れて草刈して下さったことで判明します。自ら前向きに社会への善行として努力の見られる地域は大変に有り難く感謝しております。
- ★ 地域の河川清掃による堤防草刈の回数が増えたため自然消滅、調査場所に限らず周辺の休耕田、雑草地とも全体として従来からみて非常に減少している。今年は黄色の群生が見られない。
- ★ 自然淘汰の現象としか思えない。休耕田だが所有者の草刈の回数が増えている様。

③花が見からない理由不明、その他

- ★ しばらく観察していなかったのが何時中州のセイタカアワダチソウがなくなったか分かりませんが、(洪水で流れたのか)、河口を浚渫されたからか?と思っています。毎年咲いている内に、秋になったら黄色の花が咲くのかなという感覚になってしまっている事に気が付きました。
- ★ ほんのわずかですがコンクリートに押されて根が横へ移っていった場所、又は、堤防ぎわ。川の水が干されるのを知り水脈を辿った跡が見える。
- ★ 今迄あった川原等見て歩きましたが、ヨシばかり。なかなか見つからず皆様に聞くと此頃見かけないとの事。しかし、我が家の庭の庭ざくらの中に2本、1米50糎位の茎に2輪見事に咲きました。
- ★ ①工業の化学物質がその植物の生育に合わない。②また、放射能の雨が注ぐ位置にある。山沿いに雨が降って枯れるためか。③小まめに草刈して車が通った。排気ガスがフロンガス状にされたため。④セイタカアワダチソウが飼料や薬に使われたのではないだろうか。(口に入れるもの。)⑤花粉を染料に使っていないだろうか。(身にまとうもの。)この町は山間には雨がたまり易い、日蔭と日なたの差が大きい、一般の住宅は人が住んでいるかどうか不明であるのが、定期的に決まった方が来て決められたポイントを整備管理させられた跡が見える。

「セイタカアワダチソウが咲いている調査」と「1997 年度の追跡調査」のまとめ

フィールドレポーター スタッフ 椛島昭紘

1. セイタカアワダチソウが咲いている調査

9月末に調査票を送り、セイタカアワダチソウの花が咲いている状況を調査して頂きました。39名の方が11月末までに166件の結果を送って下さいました。ほぼ全県で、花の咲き始めから種ができる頃までの期間の調査結果です。前回(18年前)の1997年度の結果と比較しながら、変遷が分るようにまとめました。概要は次の通りです。

- ① 2015年度は166地点、1997年度は236地点。湖東が減り、湖西が増えました。
- ② 2015年度には1997年度に比べて、200m以上の長さの帯状集団や、1,600 m²以上の大規模な集団の割合が増えました。
- ③ 草丈は堤防には1m以下の低いものが多かったのに対して、農地休耕地・空き地では2m以上の高いものが多く、最高は3.7mに達しました。
- ④ 草刈の頻度は堤防で高く、農地休耕地、空き地で低い。草丈には草刈頻度が影響し、年数回草刈される場所では1m以下が7割を占めたのに対して、草刈されないと1.5m以上が7割を占めました。
- ⑤ 混生していた草を2015年と1997年で比較すると、ススキは3~4割でほぼ同等だったのに対して、クズは3割で4倍に増えていました。草刈の頻度が上がるとススキ、ヨモギ、エノコログサとの混生が増えました。

2. 1997 年度調査の追跡調査

1997年度の調査に参加された方に18年前の場所で調査お願いしました。15名方が参加されました。花が有ったのは30地点、無かったのは37地点でした。約半分強の地点で花が見られなくなっていました。調査者が考える主な原因は、環境が変わった地点では住宅開発、環境が変わらなかった地点では草刈の頻度が上がったことでした。

セイタカアワダチソウの花が見られなくなった地点で見られた草はススキが最も多く、続いてヨモギ、エノコログサの順で、草刈をした場合の混生種と同じ傾向でした。

寄せられたコメントの中にも「役所や管理者の方の手入れにより綺麗になって、花が消えて行くように思う。」というのが数件ありました。

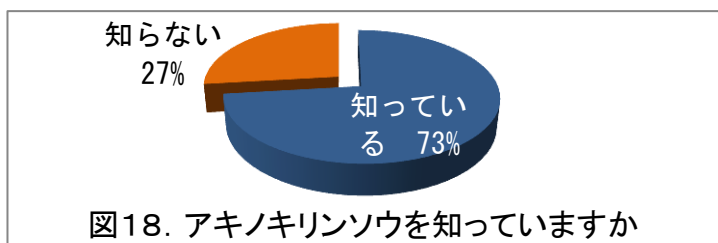
3. 以上の2件の調査をまとめて

セイタカアワダチソウは身近で人の関わりの強い草です。草刈の頻度が高い環境では、ススキやヨモギ、エノコログサと競って芽を出し、草丈が低いままでも花を咲かせて生き残ります。一方、手入れされない環境では帯状に長く、あるいは広大な集団になって、草丈2m以上にまで伸び伸びと育っています。環境の変化に適応して遅く花を咲かせているようです。

Ⅲ. セイタカアワダチソウについて知っていること、感じたこと調査

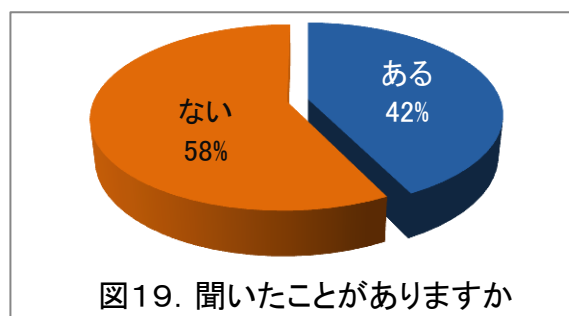
1. アキノキリンソウ(アワダチソウ)をという植物を知っていますか？

全回答者:41名
 知っている:30名
 知らない:11名
 (図.18)



2. セイタカアワダチソウとアキノキリンソウが同じ仲間だと聞いたことはありませんか？

ある:17名、ない:23名、回答なし:1名
 アキノキリンソウを知っている人は全回答者中 3/4 と多いにも拘らず、セイタカアワダチソウと同じ仲間であることを認識している方が半数以下でした。(図19)



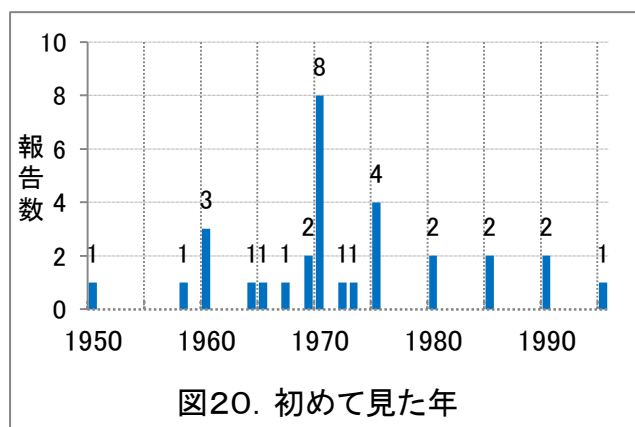
日常的に花や草の仲間を分類して接したりすることが少ないせいかと思います。

「ある」と答えた方の情報源は図鑑が多く、しっかり個人で学習されているようです。ただし、この2種は近縁ながら別種であることから、「同じ仲間」と考えなかった人もいたことでしょう。

3. セイタカアワダチソウについて昔のことをお聞きします

A) 初めて見たのは何年頃[西暦記載]

回答者:31名、無記載:7名
 わからない、記憶なし:3名
 1950年が最も古く1995年が最近となっています。レポートの年齢により変動する設問ですが、どうやら1970年がピークになっています。1960年から1980年の20年間あたりが生育場所を広げ、注目された時期であったことが推定されます。(図20)



B) 初めて見たのはどんな場所でしたか？

回答のあった37名のコメントから、複数の箇所を上げている方が何名かありましたので延べ数で集約しました。空地と河原で約半数となりますが、

表5. 見つけた場所(延件数)

空地	13	交通量多い道	1	資材置き場	1	
河原土手	6	野原	2	住宅造成地	1	
河原	6	林道	1	プランター	1	
河川敷	3	田の土手	1	花畑	1	
国道沿い	5	鉄道線路	2			
					合計	44

あとは1～2件でバラバラ項目でした。(表5)

河川、河原、河川敷を合わせると15件になり一番多く、次に空地の13件が続きます。野原、林道も加えると、全体の3/4になり、市街地でなく郊外で初めて見たという方が多いという結果になります。

C)18年前(1997年度)調査に参加しましたか

今回から参加 24名
 18年前も参加 17名
 初参加の人がやや多くなりました。
 (図21)

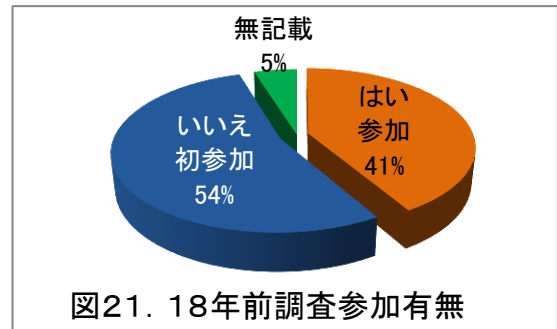


図21. 18年前調査参加有無

D)セイタカアワダチソウが増えていますか、減っていますか

全回答者41名のうち半数が減ったと答えています。(図22)

しかし、今回初参加者と前回は参加した人で傾向が違うように思えたので、分けて集計をしてみました(図23)(図24)。前回の経験を土台に今回の調査に参加された方は6割以上が減ったと感じておられるようですが、増えたと答えた方も多く、メリハリのはっきりした回答結果と言えます。

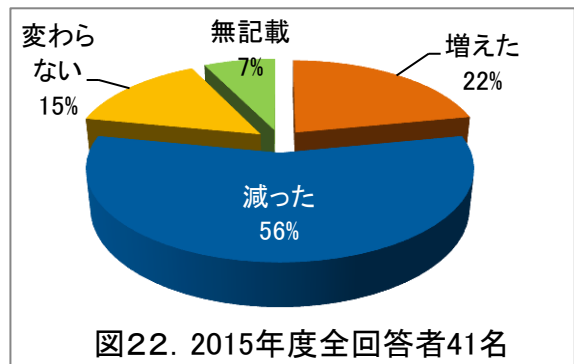


図22. 2015年度全回答者41名

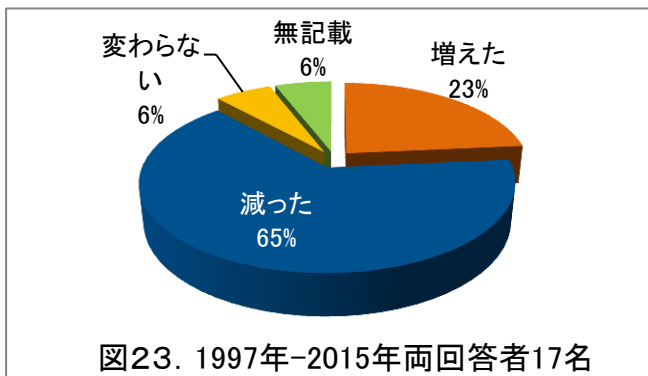


図23. 1997年-2015年両回答者17名

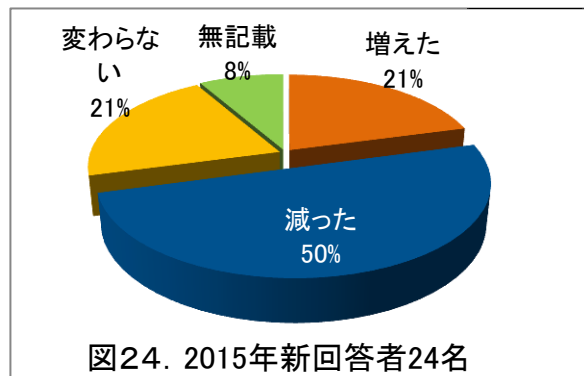


図24. 2015年新回答者24名

一方、2015年に初めて調査に参加された方は、1997年の調査にも参加した方に比べて、「変わらない」や無記載が多くなっています。初参加者にとって、判断の基準が明確に出せなかったものと思われる。

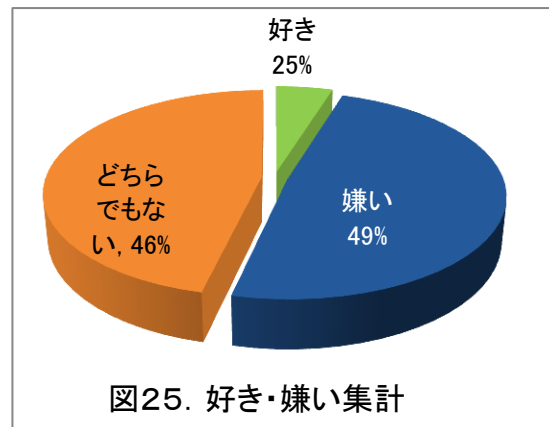
4. セイタカアワダチソウのイメージについてお聞きします。

A)セイタカアワダチソウがすきですか？

この設問でセイタカアワダチソウの好き嫌いとその理由を答えてもらったあと、ふさわしい言葉や花言葉を作っていただきました。また、セイタカアワダチソウについて、聞いたことがあること、知っていることを何でも自由に書いてもらう欄も設けました。セイタカアワダチソウが好きか嫌いかを聞いた設問では、41名中、好き2名、嫌い20名、どちらでもない19名となりました。嫌いというイメージを持っている人が多いという結果です。(図25)

ところが、しっかり答えてくださった自由記述や理由づけの言葉、花言葉を並べてみますと、真意、本音が別にあるように見えてきました。特に「どちらでもない」が全体でも半数近くです。そこで自由記述の内容を詳細に分析することにより各人各様の本音を探ることにしました。

また「嫌い」とされた回答者でもそれぞれの主張と感情を持っておられるようです。分析にあたり各回答者の記述を抜粋しました。長文の方はポイントとなる文言をなるべく原文どおり取り出しました。



A-1). 好き(回答2名)

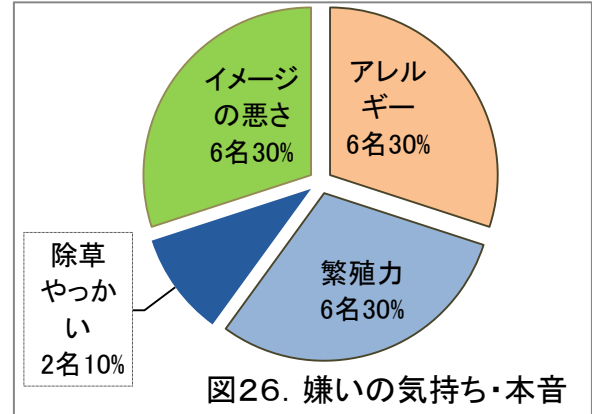
- ① 好きという言うほどではないが見つけるとほっとする。心がなごむ。
- ② 花に黄色がとてもきれいです

A-2). 嫌い(回答20名) 『* *』は花言葉

- ① 外来種の毒々しいだけで風情のない色の花。『自業自得』 イメージ悪い
- ② 荒地とか人の手がかはいていないところに群生しているから。『荒れ地の暴れ者』 イメージ悪い
- ③ 町を汚す、日本の風土に合わない。『はぐれ草』『狂女』 イメージ悪い
- ④ 荒れている感じが嫌い。『伝染』 イメージ悪い
- ⑤ 我がもの顔に広がりすぎたから。『ごめんなさい』 イメージ悪い
- ⑥ ワタ毛がとぶ、背が高くなる、密集する。『群衆』 イメージ悪い
- ⑦ 花粉を吸うとぜんそくになると言われたから。 アレルギー
- ⑧ 花粉症なので。群れて咲くときれいに見える。 アレルギー
- ⑨ 公害花と聞く、ぜんそくには特に悪いようだ。『悪花房』 アレルギー
- ⑩ 花粉症になると聞いた。公害のイメージが強い。 アレルギー
- ⑪ その花粉がアレルギーを起こすらしいとおもったから。『非常に強い』 アレルギー
- ⑫ 私は杉の花粉症なので。アレルゲンとなる植物だから。 アレルギー
- ⑬ 大きくなり風通しが悪くなる 繁殖力
- ⑭ 増えていくので。『なり金そう』 繁殖力
- ⑮ 最初は繁殖力が強く(中略)、最近では以前のように繁殖せず、日本の雑草と共存。 繁殖力
- ⑯ 良く草刈をしないかぎりいくらでもふえてゆく。『見わたす限り黄々と』 繁殖力
- ⑰ 多草の駆逐力が強い。『侵略』 繁殖力
- ⑱ 毎年増加するから。 繁殖力
- ⑲ 雑草だから。 除草やっかい
- ⑳ 根がはびこって除草がたいへん、花粉で喉が痛い。自己主張が強い 除草やっかい

「嫌い」と回答された方の自由記述は大きく区分されました(図.26)。

- ・色、繁殖力等からあまり良い印象がもてない(①~⑥)
- ・花粉症、喘息、の原因とされていることの懸念(⑦~⑫)。
- ・増える、繁殖の強さに嫌悪、行き過ぎと考える(⑬~⑱)。
- ・はびこる、除草が大変という現実的な苦情(⑲⑳)



この結果、嫌いの中身が3種類ほどに分かれそれぞれ同じ割合となりました。このうち、イメージの悪さを主張される方は、その繁殖力からくる圧迫感がつよい内容なので『繁殖力』の項目に近いともいえます。アレルギーを言われている方は、その原因がセイタカアワダチソウにあるという一般通念を信じておられ、今もその懸念から抜けられない方が多いのが実情で、いったん広まった風評や風説が永く継続する厄介な事象のひとつといえます。

A-3) どちらでもない (回答19名)

ほぼ半数の回答がここに属しています。もう少しセイタカアワダチソウの好き嫌いがはっきり出ると想定していましたが、この中間回答はそれにしても少し多すぎと感じます。前項「嫌い」の回答解析で、その本音を探ってみました。同じやりかたで、「どちらでもない」回答者のコメント、自由記述、花言葉、等を同様に並べてみました。みなさんはっきり戸惑いを述べておられる方が多いのが分かりました。

前項同様各自コメントを抜粋記載します。【*】は花にふさわしい言葉、『・』は花言葉。そして、コメントの中身を比較的好印象を○、批判的感覚を▲にし10段階で区分しランク分けして右端に表示しました。

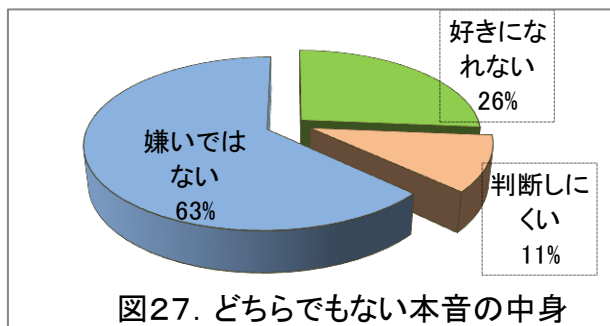
- | | |
|--|--------|
| ① 2-3本のときはきれいと思うが、茂っていると雑草と見える。
『悲しみといじわる』 | ○4 ▲6 |
| ② 花、開花までは美しい。その後の姿は好きでない。在来種を駆逐する。
【元気】【生命力】【新興勢力】…『やんちゃ坊主』 | ○4 ▲6 |
| ③ 一時期花粉症になると聞いた。 『素直』 | ○5 ▲5 |
| ④ コメントなし 『侵略強靱』 | ○0 ▲10 |
| ⑤ どちらでもないがあまり良い植物のように聞かない。
『あっさりしている』『そっけない』 | ○2 ▲8 |
| ⑥ コメントなし | ○5 ▲5 |
| ⑦ コメントなし。昔子供のころ群生地が遊び場だった | ○3 ▲7 |
| ⑧ 最初は花がグロテスクでした。咲きはじめかわいい。
【のびのびと広く】…『生き延びる力』 | ○6 ▲4 |
| ⑨ 何か生き物に役立つところを持つ。少量、体質テスト…アレルギー抗体を作る様な気がして…。『異人草』 | ○6 ▲4 |
| ⑩ 外来種ですが今は秋の風物になっている。『ぬれ衣』 | ○6 ▲4 |

以前は花粉アレルギーのブタクサと間違えられ嫌われていた。

- ⑪ まあ許せる;花が細かくきれい。 『けなげ?活力』 ○6 ▲4
 きれい;草取りが冬越しして生えるのでたいへん。
- ⑫ 花がかわいいが繁殖力が強い。『きどらない花』 ○6 ▲4
- ⑬ コメントなし。『黄色のじゅうたん』 ○6 ▲4
 余り気にしていませんでしたが、今回いたるところどこでも咲いてビックリ
- ⑭ 群生してきれい。外来生物であるから複雑な気持ち ○6 ▲4
 【どんな荒れ地でも何とか生き抜いていく開拓者】
- ⑮ 日差しで菜の花に匹敵するほど花がきれい。他の植物を ○6 ▲4
 押しのけて繁殖するのは困る。『端正な美しさ』『秘めたる力強さ』
- ⑯ 小さい時はきれいかも、増える、木みたいになる。 ○6 ▲4
 草木染めをしました。染まりますが香りは良くなかった。
- ⑰ 日本の風景になったから。ぜん息と無関係とわかった ○6 ▲4
 アメリカでは州の花。 【融合と調和】・・・『根性』
- ⑱ 精力的に咲いている風景は嫌いでない。『おおらか』 ○7 ▲3
- ⑲ 以前は花粉症の原因と思って嫌っていたが、少なくなった今 ○7 ▲3
 群落を発見するときれいだと感じてしまう。『わたしをきれいにならないで』

集計結果

好きになれない	○ < ▲	5名
判断しにくい	○ ≒ ▲	2名
嫌いではない	○ > ▲	12名



一部コメント無しの方もいらっしゃいますが、ほとんどのの方が、ふさわしい言葉や花言葉で各自の気持ちを見事に表現されています。まったく無関心で「どちらでもない」を選択されているのではないことが集計をしながら実感出来ました。かなり主観的になりますが便宜上どうしても「好きになれない」グループと「嫌いではない」グループに分けました。その中間あるいは情報不足の人は「判断しにくい」としました(図27)。

以下で、多少の想像を交えながら、それぞれのグループの方々の平均的な見方を推測してみます。

「好きになれない」グループ (5名)

一気に咲き広がり世間がまっ黄になった時期の感想が、いじわる、侵略、駆逐といったマイナス印象が残っているが、生命力や元気さのプラス印象も素直に認めざるを得ず判定に当たってマイナス面が優勢となった。花粉症などの風評がまだ影響している。

「嫌いではない」グループ (12名)

昔見た当初はきれいだと思ったがその後の繁殖力があまりに強烈で、一歩引いてしまったが、なんだか最近おとなしくなったではないか。大きくなるとまだまだうっとうしい感じだが、

小さいものは結構かわいいと思える。繁殖の強さを「生命力」とみる。「根性」とも「開拓者」とも「おおらか」とも感じる。アレルギーの件は「ぬれ衣」と知った。日本の風土に同化し、秋の風物になっている。

「判断しにくい」(2名)

コメントなしの方です

B) セイタカアワダチソウの花を表現するのにふさわしい言葉を上げてください。

・花ことばを作るとすれば何になるでしょう

C) セイタカアワダチソウについて聞いたことがあること、知っていることを何でも自由に書いてください。

これら B)C)の設問内容は、A)すき、きれい、の解説の中で取り上げさせていただきました。

IV. セイタカアワダチソウについて知っていること、感じたことの調査

【問5. セイタカアワダチソウのイメージについて、1997 年度と 2015 年度の好み比較結果】

1. 1997 年度「セイタカアワダチソウかならず調査」より集約と解析

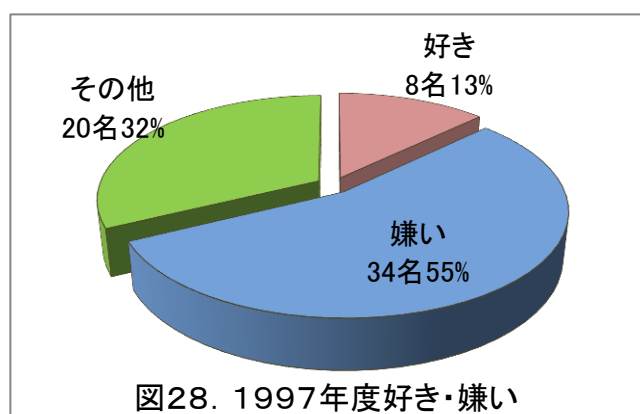
1-1. 好き嫌い・集計

回答者数:62名

嫌い 55%、好き 13%、その他、(図28)

過半数が嫌いであると回答している。

2015 年度調査と比べて、全体として好き嫌いがはっきり出た結果と言える。



1-2. 好みの理由

1-2-1. 好き8名

『**』は花言葉

- 1 こまかな黄色い花が美しく、小ぶりなものは生花にする
- 2 染めで良い黄色になる。花言葉『誘惑』
- 3 花言葉『ミヤズヒメ』、セイタカアワダチソウの歌
- 4 いやな香りがしない。美しく楽しい。工芸作品への利用
- 5 花言葉『独占』、『注意信号』、『長い青春』
- 6 花言葉『仲間』
- 7 花言葉『あざやか』

(考察)

鮮やかさを感じ黄色に注目している人が多い。

染め、工芸、生花と利用度の高さに好感を持っている。

1-2-2. 嫌い34名

『***』は花言葉. ♡高感度コメント

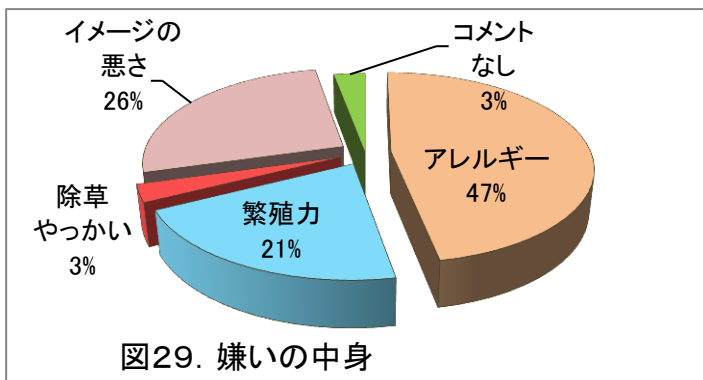
1. 『アレチノキロバナ』、ぜんそく	アレルギー	
2. 『ブラックバス草』 ゼンソク病	アレルギー	
3. イマイワシ物体、花粉症の発生源、アメリカから入って来た	アレルギー	
4. ぜんそくの原因 『成金趣味』 『しつこい』	アレルギー	
5. 花が毒を持っているので『交通信号』 ♡建築材料に使用	アレルギー	
6. 花粉がぜんそくになる、『ブラックバス』 ♡スキと群生美しい	アレルギー	少し好感有
7. 花粉症の人は困っている様子、『傲慢』または『侵略』	アレルギー	
8. アレルギー源(今はそうでもない)、♡『たくましさ』『強い生命力』	アレルギー	少し好感有
9. 花粉が病気につながるというわさが出てから。♡好きだった	アレルギー	少し好感有
10. 花粉症になるから 『きまま』	アレルギー	
11. ぜんそくの原因になると聞く ♡力強さ	アレルギー	少し好感有
12. かふんをすうと、かふんしょうになるときいた ♡『強い』	アレルギー	少し好感有
13. アレルギーの原因・帰化植物・アロパシーヲ出す 『やきもち』	アレルギー	
14. 花粉症の原因とか・・・ 『あつかましさ』・・・軒先貸して母屋取られる	アレルギー	
15. 松くい虫が入って松枯れが起こる、喘息の原因、『オゴリ(高ぶる)』	アレルギー	
16. さわるとせきが止まらなくな『黄色いブドウ』『悪魔』	アレルギー	
17. 景観を壊す、♡養蜂業の蜜源、開花状態見事	イメージ悪い	少し好感有
18. 『黄色い風向き』『風来坊』『きまぐれ』『ななふしぎ』	イメージ悪い	
19. 外国から入ったザツソウ	イメージ悪い	
20. 『キロメイワクバナ』『お邪魔虫』	イメージ悪い	
21. 堆肥の材料等にならないので処分に困る、『悪魔のおくりもの』	イメージ悪い	
22. いやらしい草、『傍若無人』『唯我独尊』	イメージ悪い	
23. 毒の花だから仏様にお供えしない、成金草、『まほう使い』『あくま』	イメージ悪い	
24. 農家では全然きらって居り、花言葉は考えられず残念	イメージ悪い	
25. 秋の訪れと おしむ秋を象徴している	イメージ悪い	
26. 『侵略者』	繁殖力	
27. 日本古来のスキ、藤袴などを駆逐するいやなやつ『傲慢』	繁殖力	
28. 『荒野の支配者』『荒野・野生』 ♡工芸品	繁殖力	少し好感有
29. スキを席卷して広まった、『厚かましい』『我物顔』『鼻炎のもと』	繁殖力	
30. 『がまんづよい』	繁殖力	少し好感有
31. 抜いても広まって行く実にはいやな草、『強引な・厚かましい』	繁殖力	
32. 田畑の手入れがおくれるとすぐ増加するので困る	繁殖力	
33. 草刈りに幹が固くて難儀する 『冥土の鈴花』 帰化植物	除草やっかい	
34. コメントなし	なし	

イメージの集計(図.29)

回答者 34名

表6. 嫌いの中身

アレルギー	16名
イメージ悪い	9名
繁殖力	7名
除草やっかい	1名
コメントなし	1名



(考察)

ほぼ半数の方がアレルギー、花粉症という内容で嫌いとされています。すでに花粉症の原因にならないことが知られた時期ですが、まだ一般通念としては花粉症の原因とされていました。咲く場所を選ばず、圧倒的な勢いで繁殖する力にイメージの悪さを感じている姿がうかがえます。繁殖力とイメージの悪さを合わせればアレルギーと答えた人たちと同数でこの2項目が嫌いの内容といえます。判定で嫌いの回答をされていながら、花言葉では少し好感のあるような方がいます。

1-2-3. その他20名 『**』は花言葉、そしてコメントの中身を比較的好印象を○、批判的感覚を▲にし10段階にランク分けして右端に表示しました。

1.普通、適度(量的に)遠くから見て、花粉症の原因(ならない)。	○5 ▲5
2.背が高く愛らしくない、『なごませ暖かくしてくれる花』『和み花』	○6 ▲4
3.64%好き、『ひよろ長 in フラワー(せが高くなーれ)』	○7 ▲3
4.とくにいいししたことなかった、『おそろべきセイタカアワダチソウ』	○5 ▲5
5.花粉症を引き起こす、疎まれてかわいそう、『けなげ』『生命力』	○6 ▲4
6.水揚げも良く花の色も美しい、『黄色の魔法のホウキ草』	○7 ▲3
7.有害と言われた為に好きになれず・・・、『楊貴妃』	○6 ▲4
8.嫌いではない、病原性がなければ好きな方に入る、『ガッツ』	○7 ▲3
9.花粉症、繁殖力がきつくてこまる	○0 ▲10
10.花粉症になる、花の色は好き、『猛烈な繁殖』『元気』『征服』	○6 ▲4
11.特にどちらとも思ったことはない、『強い信念』	○6 ▲4
12.好き:染色できれいな染め上がり、嫌い:ぜんそくが起こる	○5 ▲5
13.風にそよぐ風情は良い、アレルギーになるのが困る、『根性』	○6 ▲4
14.繁シヨクがはげしく広いハニイに成つ、『雪待花』『失恋』	○6 ▲4
15.以前程、負のイメージはない。秋だなとおもう。『警戒』	○6 ▲4
16.ふつう『黄』	○5 ▲5
17.どちらともいえない	○5 ▲5
18.農耕者:迷惑な草、案外きれいな花、『広い心』『おおらかなころ』	○6 ▲4
19.季節感を与えてくれる点はよい。在来種に悪影響を及ぼすのは良くない	○5 ▲5
20.それ程好ききらいはありませんが……。『黄色いじゅうたん』	○6 ▲4

イメージの集計

回答者 20名(図30)

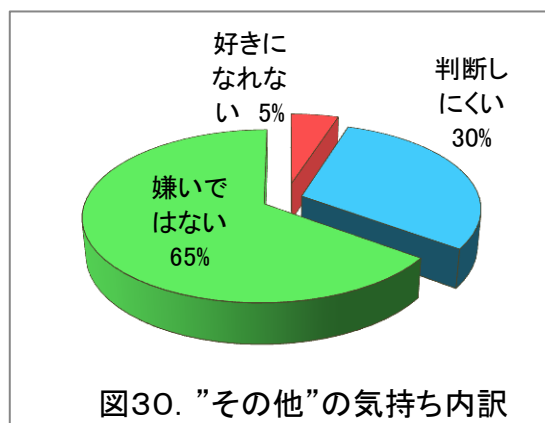
好きになれない	○<▲	1名
判断しにくい	○=▲	6名
嫌いではない	○>▲	13名

表7. その他の気持ち

好きになれない	1名
判断しにくい	6名
嫌いではない	13名

(考察)

この項目の回答は非常に多彩でした。自由に書いていただくところに長く詳細なコメントが述べられ、短くまとめることは困難でしたが、概ね本意はくみ取れたものと思います。“嫌いでないけれど好きになれない”のかと思えば、コメントや花ことばで好感が示されている人が多く、中には“好き”で良いのではないかと思える回答もあるのが興味深いところです。これが、セイタカアワダチソウの様々な側面を知る人の率直な感想かもしれません。



2. 1997年度と2015年度の好みの比較

2-1. 好き嫌い(全体) (図31)

1997年度報告者:62名

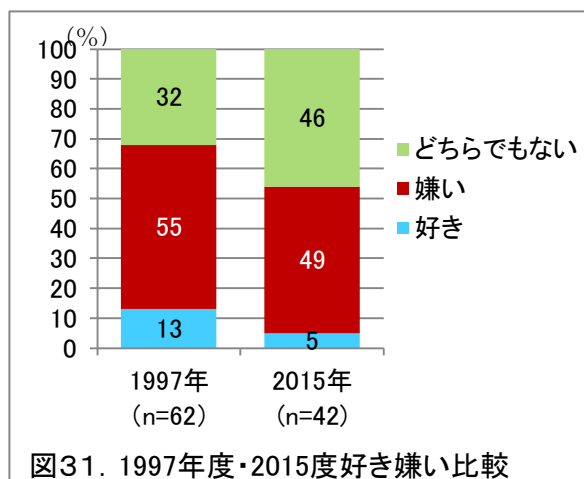
2015年度報告者:41名

設問は2015年度「どちらでもない」

1997年度「その他」となっている。

(考察)

両年ともに“嫌い”が多い。1997年度は好きと嫌いが2015年度に比べはっきりしています。選択肢が「どちらでもない」と「その他」では回答の仕方が違ってくることが原因かも知れません。



2-2. 好き

表8. 「すき」の比較

年	1997年度	2015年度
人数	8人	2人
理由	見た目がきれい・鮮やか。 細かなあやか黄色い花の美しさ。 染めや工芸品への利用	黄色がきれい 見つけるとほっとする

黄色の鮮やかさに強く反応された方が好きを選択している。過去の経緯で良いところ、悪いところを知ってしまい、判定のジャッジを素直に好きにあげられなくなったのが、2015年調査で「好き」が極端に少なくなった一因ではないでしょうか？

2-3. 嫌い

1997 年度

34名/全62名 (55%)

2015 年度

20名/全41名 (49%)

(考察) (図32)

嫌いの全体に占める割合は兩年ほぼ同等。アレルギーに対する警戒は 1997 年で回答者の、ほぼ半数におよぶ。一部の方は誤認であることを述べておられるが一般的には真実とされ固定観念となりつつあった時期と思われる。1997 年度では嫌いコメントしつつも、繁殖力には力強さ、生命力、我慢強さといった好感寄りのコメントが多い。2015 年度でも根強く 1/3 が花粉症の心配を理由としている。世評の浸透とその払拭が容易でないのがわかる。繁殖力と除草のやっか

いさ、といった状況が 2015 年度の特徴か。1970 年代のころから繁殖力の強い姿を見続け、早くから喘息要因と教えられて来た人は、害の無さを説明されても簡単に認識の切り替えが出来ず、イメージの悪さを持ち続けてきたのかもしれない。

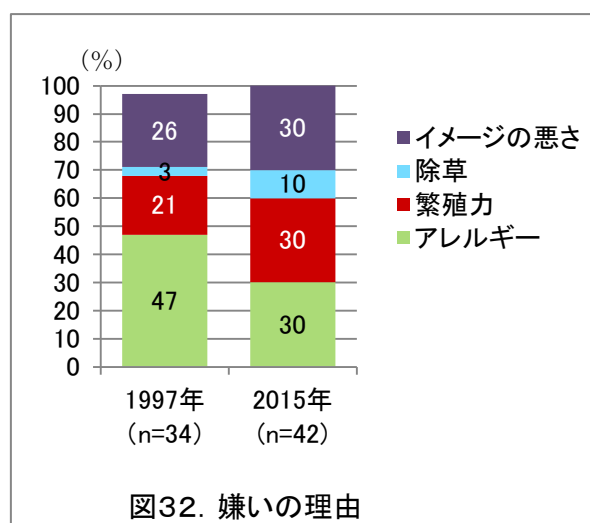


図32. 嫌いの理由

2-4. 「その他」(1997 年度)、「どちらでもない」(2015 年度)

1997 年度

20名/全62名 (32%)

2015 年度

19名/全41名 (49%)

(考察) (図33)

前項までの分析の通り、「その他」「どちらでもない」と答えた方の自由記述欄を参考に、「その他」「どちらでもない」の回答者を、「嫌いではない」「判断しにくい」「好きになれない」に分類してみました。

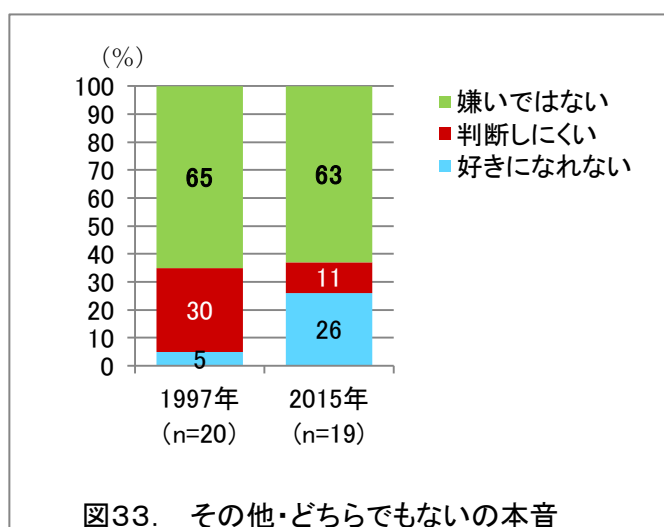


図33. その他・どちらでもないの本音

(1) 1997 年度、2015 年度ともに嫌い

ではない人の割合は似通っていましたが、そのニュアンスはそのニュアンスはやや異なっているように思われます。

1997 年度: かなり好感度が高いが何が何でも好きでないから“その他”にしたと思われる。もっと押されたら“好き”に乗り換えるかもしれない人が多いように思えます。

2015 年度: 以前、喘息のイメージ等悪印象が強かったため、認識がなかなか変えられない。加えて繁殖度合などの変化もあり、判断ができず“どちらでもない”を選択。選択肢が異なっていたことが、解答に影響を与えた可能性もあります。

(2) “好きになれない”の率は 2015 年度が多い。

1997 年度:判断のベースに嫌いの感覚が薄いと思われるのが特徴。

2015 年度:嫌いのベースが根強くある。別の見方をすれば良い面も出ているように感じるけれども、さりとしていまさら好きになれない中途半端な意識。以前感じた不快感は簡単に覆せない、従って回答では中道にせざるをえない。

(3) 判断しにくい。

あまり関心の無いと思われる回答が少数ながらありました。

1997 年度回答では好き・嫌いをはっきり主張されている方が多く、そうでなければその他と言っておられるケースが多いといえます。

(4) 1997 年度と2015 年双方の共通点

いろいろな意見を持っておられる。好きと嫌いが裏表の方も多し。どちらに判定してよいか苦慮した末に、一言のコメントや花ことばで本音が漏れた方も多かったと考えています。

3. 「セイタカアワダチソウについて知っていること、感じたこと調査」の自由記述

2015 年度調査の自由記述について、調査票に記載された原文のまま、セイタカアワダチソウの好み別に分けて紹介します。

①. 好き

◇ 外来種である。手入れされない荒地に生えている。

②. 嫌い

◇ 他の植物を枯らせて培え続ける、その内自分も枯れるとか……。戦後、沖縄から増え始め北上を続けた。花粉症のもと。野菜のテンプラで芽を食べたことがある。

◇ 減ったけどまた増えている。

◇ 花粉症のアレルゲンの一つ。

◇ 明治時代に海外から飾る花として輸入されたものが広がった。以前はセイタカアワダチソウは背が高かったように思いますが、今回調査して始めて、えらく背が低くなったな一と、気づきました。

◇ 外国から来た花と聞いたことがあります。

◇ 最初に見た処が四日市(在勤6年余)であり公害のイメージが強い。然し苦労はあったが、良き時代であった。84才となり認知症予防のため、各種行事への参加、特に毎週一回はグラウンドゴルフに勤めています。

◇ 1975年に広島で電車通勤をしていました。駅前に設置されたプランターに、「この物に注意してください。」という文とともに、外来で繁殖力の強いセイタカアワダチソウを紹介していました。その頃にはセイタカアワダチソウはまだ目立っていませんでした。

◇ 草刈の回数が多くて困っている。

◇ ハイキングをよくしていた頃、里山道路わき、川原、河川敷き、住宅造成の空き地に咲いて居ました。根がよくはびこって除草が困難だと聞いていました。アキノキリンソウが秋の風情をただよわせているのにくらべ、群落をなして咲いているので目ざわりです。

◇ さわるとせきがとまらなくなる。

◇ 花粉がゼンソクに悪い、また、ゼンソクになる。

- ◇ 50数年前にはお盆の墓参りに花が少なく、畑の一部に植えられ、近所の人が株分けして持ち帰って供えていた。
- ◇ 薬になったり染料になるのは聞いた事ある。今年は夏、暑かったので相対に草丈が短い様に思います。勢いも18年前よりだいぶ悪くなっていると思います。
- ◇ 最初は繁殖力が強く、建物周辺は鎌で軸を切っていました。又、除草剤も何回も散布しました。最近では以前のように繁殖せず、日本の雑草と共存するようになったと思います。
- ◇ 車の排気ガスで育つ。花粉を吸うとぜん息になる。全草を干して入浴剤になる。草刈をするとどんどん増えるが、ほうっておくと絶える。

③. どちらでもない

- ◇ 農家にはきらわれ、生命力が強い為他の野草が少なくなる。
- ◇ 地元ではぜん息おこるため嫌って良くない草としています。草刈には、どんどん刈取っていく草になっています。背より低く柔らかな草に出来ると繁殖が弱くなるかも知れませんが。
- ◇ 以前は花粉アレルギーのブタクサと間違えられ嫌われていた。
- ◇ アレロパシー物質
- ◇ 余り気にしていませんでしたが、今回いたる所どこでも咲いているのにびっくりしました。
- ◇ ①1975年頃は「ぜんそくになる」と聞いていたので、空き地や子供の通う学校周辺の草刈の時に気になったことをおぼえている。②2m位の伸びた枯れた茎で弓矢にして子供と遊んだ。また、野菜の支持棒の代わりにした。
- ◇ [文献より]¹⁾; スギ花粉などと違い虫媒花であり花粉症を引き起こさない。アレロパシーを有しており、根から周囲の植物を抑制する化学物質を出す。[観察結果より]; 木の下(日当たりの悪い場所)には生えない。しかし日当たりさえ良ければコンクリートの割れ目やツツジの植栽場所など場所を選ばない。背が高いので有利。ワルナスビと同様に地下茎があり草刈では根絶できないばかりかむしろ競争相手がいなくなり好都合かも知れない。1～数株ほど生えている場所は至る所にあり報告するには切がないくらいである。
- ◇ 10才くらいの頃(1965頃)、2才上の姉や近所のおねえちゃん達とセイタカアワダチソウが群生している空き地に、茎を踏み倒しながら細い道を作って入り込み、奥の方に基地(住居?)作りのような楽しい遊びを何日間か続けた思い出があります。セイタカアワダチソウは大人の背よりも高く、茎の下の方は木の枝のようにポキポキと折れ、加工しやすく「敷物」だの「屋根」だの作りました。
- ◇ セイタカアワダチソウを食草としている虫が海外から同時に入ってきて徐々に生育地が少なくなってきたのかも……。

¹⁾編集部注：セイタカアワダチソウに関する文献として、例えば以下のようなものがあります。

虫媒花であることについて：清水建美編著（2003）日本の帰化植物、平凡社

アレロパシーについて：奥田重俊・武田良平編著（1985）フィールド図鑑植物①人里の植物、東海大学出版会

- ◇ 10年程前に草木染をしました。染まりますが香りが良くなかったと思い出します。泡がグツグツ煮ていると出たのでアワダチソウなのかと感じていました。草刈後枝分かれして伸びます。封書が届いた頃は見かけなかったけれど10月に入る直前にあちこちに花を咲かせ休耕田は花いっぱいです。
- ◇ 子供の頃(小5位?)セイタカアワダチソウを抜いて葉をとって剣に見立てて友人とチャンバラゴッコをした。竹より簡単でたたかれても痛くなかって、楽しかった。
- ◇ ▽知人と話していると、ブタクサと同様に花粉症の原因となるやっかいな植物と思われるようだ。(中には混同して、道端の背の低いものをブタクサと呼び、背の高いものをセイタカアワダチソウと思っている者もいた。)▽人の移動や土地の改変の少ない山間部はセイタカアワダチソウの繁茂がすくない? 安曇川沿いに県道、国道を上流へ遡っていくと、安曇川町内や朽木の市場周辺には至る所に繁茂しているが、それよりさらに上流域(大野、村井、栃生)ではまばらになり、しかも背丈も低く大集団を形成していない状況が見られた。(荒地は多くあるが主にススキが占有している。)▽生育条件が良ければセイタカアワダチソウはどれくらい背が高くなるか? 調査の中には日当たりがよく、風当たりが少なく田の休耕地で背の高さが3.7m(茎の直径1.7cm)のものがみられた。なぜ、これだけ高くなるのか驚いている。
- ◇ 名称、アキノキリンソウ、アワダチソウ、セイタカアワダチソウ、まぎらわしく同時に見比べ確認したことなく、確信もてない。
- ◇ 食べたという話を聞いた。食べられるなら一度食べてみたい。料理法は天ぷらかおひたしだろうか?
- ◇ 生命力が強い為他の野草が少なくなる。
- ◇ 18年前の調査結果が知りたいです。▽花粉症の原因(本当はちがう、ぬれぎぬ!!)。ススキに勝って(被度率?、植生高?)いる、今はススキが盛り返している。▽「植物の名前がわかって何が楽しいの?」と言われたことがあります。また別のとき、別の方にオオキンケイギクがさきほこっている所で「外来種って、何がダメなの? きれいだよ^」と言われ、どちらも絶句で答えられませんでした…。▽近年咲きほこる花の外来種以外にあちこちにはびこる外来種、タチスズメノヒエ、アレチウリ、アメリカマルバアサガオ、ウラジロチチュウグサ、わけのわからない種等々。その答えがセイタカアワダチソウで見つかることを願っています。(長くてすみません。)

「セイタカアワダチソウについて知っていること、感じたこと調査」の感想

フィールドレポーター スタッフ 中野敬二

1. 以前のような外来の侵略種、アレルゲン、といった悪印象のあったセイタカアワダチソウですが、その勢いが穏やかになったという印象が共通のようです。
2. 普通の野草としての認識に移行している途上と思えます。
従って嫌い面を知り、良い面も感じているレポーターは{どちらでもない}と回答するしかなかったと判断します。

3. 染物の材料や、加工品の原料、薬用効果の検討提案もあり、好き嫌いの対象ではないとの回答も一部ありそうです。
4. 1970年代のころから繁殖力の強い姿を見続け、早くから喘息要因と教えられて来た人は、害の無さを説明されても簡単に認識の切り替えが出来ず、イメージの悪さを持ち続けることになる。2015年度の報告者にその姿が濃いようです。
5. 1997年度と2015年双方ともいろいろな意見を持っておられるのが共通です。
好きと嫌いが裏表の方も多し。どちらに判定してよいか判断に苦慮した末に、一言のコメントや花ことばで本音を濃縮し、紹介していただきました。苦心のあとがよくわかります。
ありがとうございました。

お礼

大塚学芸員、澤邊学芸員、大久保学芸員には調査計画から報告書作成までの期間を通してご助言ご指導をいただきました。皆様に深く感謝申し上げます。

フィールドレポーター スタッフ 中野敬二、椋島昭紘

セイトカアワダチソウを調べよう 調査票

【調査票—1】 セイトカアワダチソウが咲いている場所の調査

この調査票は1つの場所に1枚答えて下さい。 提出番号()

- 1、調査者 氏名 住所
- 2、セイトカアワダチソウが生えている場所について
 - A) ()市・郡 ()丁目・町 ()番地
 - B) 判る方は 緯度() 経度()
メッシュコード[世界地系]()-()
 - C) どんな場所ですか(○を付けてください。)
・田んぼのよこ ・道ばた ・河原 ・公園 ・休耕田
・空き地(市街地 農地 住宅地) ・その他()
- 3、セイトカアワダチソウの集団の大きさ?(○を付けてください。)
・数株ていど ・1メートル四方 ・帯状(長さは約 m、幅は約 m)
・広い場所一面(その面積は約 m²)
- 4、背の高さはどのくらいですか?
・～50cm ・～1m ・～1.5m ・～2m ・2m以上(約 m)
- 5、いっしょに生えている植物はどんなものがありましたか?(○を付けてください。)
・ススキ ・ヨシ ・葛 ・カラムシ ・イラクサ ・アメリカセンダングサ
- 6、アキノキリンソウという植物を知っていますか?(○を付けてください。)
・知っている ・知らない
- 7、セイトカアワダチソウとアキノキリンソウが同じ植物だと、聞いたことはありませんか?
・ある ・ない
あるに○を付けた方へ質問(それは何で知りましたか?)

【Appendix－2】

セイトカアワダチソウを調べよう 調査票

【調査票—2】 セイトカアワダチソウについて知っていること、感じたことの調査

この調査票はおひとり1枚ずつ答えて下さい

- 1、調査者 氏名 _____ 住所 _____
- 2、セイトカアワダチソウについて、昔のことをお聞きます。
 - A) 18年前の調査に参加しましたか？ (・はい _____ ・いいえ _____)
 - B) 初めてみたのはいつ頃でしょうか？ (_____)
 - C) 初めてみたのはどんな場所でしたか？ (_____)
- D) 昔とくらべて増えていますか、減っていますか？ (○を付けてください。)
・増えている ・減っている ・変わらない
- 7、セイトカアワダチソウのイメージについてお聞きます。
 - A) セイトカアワダチソウが好きですか？ (○を付けてください。)
・好き ・きれい ・その他(_____)
 - B) セイトカアワダチソウの花を表現するのにふさわしい言葉を上げてください。
花言葉を作るとすれば何になるでしょうか。
 - C) セイトカアワダチソウについて聞いたことがあること、知っていることを何でも書いて下さい。

【Appendix-3】

前回調査をした地点で、今回はセイタカアワダチソウが見られなかった場合は、この調査票にご記入ください。ひとつの場所につき、一枚の調査票をご使用ください。

フィールドレポーター 2015年第2回調査
セイタカアワダチソウを調べよう

— セイタカアワダチソウが見られない場合の調査票 —

1. 調査者 お名前 _____

2. 調査日 2015年 月 日

3. 調べた場所

A) 住 所 _____ 市・町 _____

B) その地点の目印 (例: 川田小学校の東 300m の野洲川土手、樹下神社の東 50m の農道)

緯度経度やメッシュコードが分かる方はご記入ください

・北緯… _____ 東経… _____

・メッシュコード

--	--	--	--

 —

--	--	--	--

C) その場所は、以前はどのような環境(土地利用)でしたか？

(前回の環境区分とは異なりますが、①～⑳の中から一つを選んでください。)

- ◇ 山 林 : ① 山ぎわ ② 山道
- ◇ 河 川 : ③ 堤防 ④ 河原 ⑤ その他()
- ◇ 学 校・公 園 : ⑥ グランド ⑦ 植え込み ⑧ 庭園 ⑨ 周囲の法面
- ◇ 住 宅 地・市 街 地 : ⑩ 家・店の庭 ⑪ 路上や側溝 ⑫ 空き地 ⑬ 駐車場
- ◇ 病 院 : ⑭ 広場 ⑮ 駐車場 ⑯ 植込み
- ◇ 農 地 : ⑰ 田んぼ ⑱ 畑 ⑲ あぜ道 ⑳ 休耕地
- ◇ 道 路 : ㉑ 路上 ㉒ 植込み ㉓ 周囲の法面
- ◇ 線 路 : ㉔ 線路上 ㉕ 法面 ㉖ 鉄道会社敷地
- ◇ そ の 他 : ㉗()

D) 現在、そこはどのような環境(土地利用)になっていますか？

① 前と同じ ② 前とは変わった——現在は
()

4. そこに草が生えている場合は、どのような草(植物)が見られますか？

また、その中で最も優勢な(目立つ)植物の名前が分かれば書いてください。

最も優勢な植物は—— ()

* 裏へ続く

5. そこにセイタカアワダチソウが見られなくなった理由として考えられることがあれば、教えてください。

6. 調査をして気がついたことや感想など、ご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。